

かわだ いせき 3. 河和田遺跡

所在地：坂井市坂井町長屋

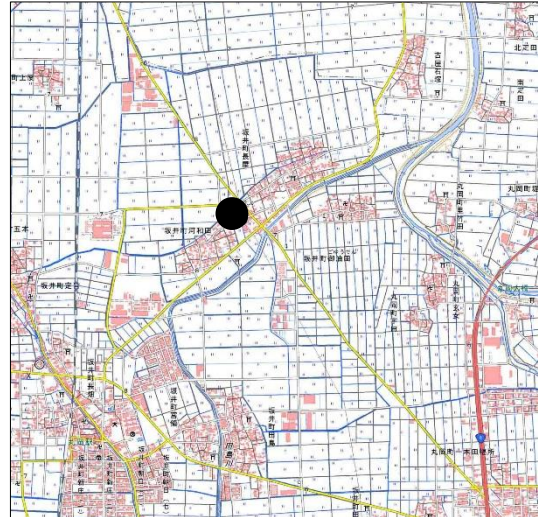
調査原因：北陸新幹線建設

調査期間：平成30年5月1日～9月28日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：997 m²

時代：弥生時代中期・古墳時代前期・平安時代・
中世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 河和田遺跡は田島川北岸、長屋集落から河和田集落に広がる自然堤防上に立地します。前年度の調査地は田島川沿いの地点でしたが、本年度の調査地は長屋から河和田集落内の自然堤防上に位置します。調査区は市道を挟み南北に分かれます。南区の現状は、駐車場等で周辺には畑等が点在します。北区の現状は宅地で、1 m強山砂で盛られていました。

このことから、南区は自然堤防の地形がそれ程改変されておらず、一方の北区は水田として利用するため削平されたと推定できます。

遺構 南区：遺構面を3面確認し、上から古代以降・古墳時代前期・弥生時代中期にあたります。主な遺構は以下の通りです。

古代以降：土坑・井戸・溝・ピット

古墳時代前期：土坑・ピット

弥生時代中期：土坑・墓壇・溝・ピット

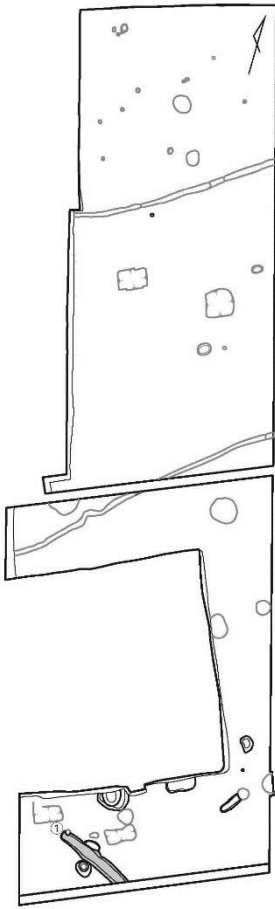
北区：遺構面は1面で、弥生時代中期から中世までの遺構が確認されました。主な遺構は溝・土坑・井戸・ピット等です。

遺物 遺物は両区を通し弥生時代中期の土器、古墳時代前期の土器が大半を占め、越前焼・土師質土器等が若干出土しています。土器類以外では、玉作関係の遺物、緑色凝灰岩・玉鋸やガラス玉などが出土しています。緑色凝灰岩には原石と考えられるものがみられましたが、完成品は少ないです。

まとめ 南区では住居に関わる遺構は検出できませんでしたが、玉作り関係の遺物が出土しました。特に玉作り関係遺物のなかの緑色凝灰岩を見てみると、従前の調査では玉などの製品が出土していましたが、今回は原石や荒割段階のものが多くみられました。河和田遺跡では玉作りをしています、地点により作業の役割が違っていたと想定されます。

また、これまで弥生時代中期の土器は確認していましたが、今回初めて同時期の遺構を確認しました。南区の調査面積が狭小であったにも関わらず多くの遺構を検出し、数多くの弥生土器が出土しました。玉作関係の遺物も出土しており、弥生時代中期から玉作を実施していたことが判明しました。

(青木隆佳)



全体図（弥生時代中期）



① SD01 遺物出土状況 西から



②SK24 遺物出土状況 東から



③SK25 遺物出土状況 西から



④SK26 遺物出土状況 南から



⑤SK28 遺物出土状況 北から



⑥SK29 遺物出土状況 西から



古墳時代初頭の遺物出土状況 西から

右：最上層 左：最上層取り上げ後